

沖縄県立看護大学 広報誌

かせかけ

VoL.
38



Contents

学生の活動 01

教育・研究の紹介 03

国際交流 04

大学院生の様子 05

地域との連携 05

寄付協力者・団体一覧 06

沖縄県立看護大学 広報
公式 Instagram

フォローしてね

学生の活動

住民の団結力が元気の源に 多良間島の八月踊り

1年次 安里 七海さん

私は多良間島の出身です。今回多良間島の八月踊りに参加して、島の人々が踊りの前後に声を掛けてくれたり、演舞中に拍手が送られたりしていたことから、改めて島の人々の温かさを感じました。

本校からの参加者も、代々受け継がれている文化を島の先輩であるおじいおばあ達が見守っている姿や、出身地や年齢など関係なしに住民全員が一丸となって祭りを作っている様子などから島の温かな雰囲気を感じていました。

また、住民総出で一つの行事に参加する姿に感動し、島だからこそその団結力を感じて、見ている側も元気を貰えたという意見もありました。幼い頃から参加していた多良間島の行事に、島から離れても参加することができてとても幸せです。

また来年も八月踊りに参加したいと考えています。



別科助産専攻の 学生生活について

別科助産専攻 18期生
牧門 歩菜さん

私達別科助産専攻 18期生 20人は、沖縄県の母子保健医療に貢献できる助産師を目指し、日々勉学に励んでいます。

前期は講義や演習を通して母子保健に関する知識や技術を学び、後期は実習を中心にした学生生活を送っています。8月から始まる助産実習では10例の分娩介助を経験し、母子に寄り添う実践力を身につけます。さらに、ウィメンズヘルス実習や離島実習では女性のライフサイクル全体を支える力を養います。

課題やテスト勉強、実技試験もある中、ほぼ毎日夜遅くまで残り課題を仕上げたり、本番に備えて分娩介助の実技練習を繰り返したりの日々であっても、みんなが手抜きをせず真剣に課題に取り組み試行錯誤する姿はとってもカッコよくて、別科を選んでよかったと思う瞬間でした。

1年間で沢山のことを学ぶため今までで1番といっていいほど忙しい毎日ですが、同じ目標をもつ仲間と切磋琢磨しながら充実した学生生活を送っています。助産師を目指している皆さん、別科助産専攻で学んでみませんか。





学外活動を継続して得た 人と関わる楽しさと将来の選択

ウインドアンサンブルティラミス所属
4年次 平田 葉奈弥さん



私は、中学から高校まで吹奏楽部に入部していました。大学に入学してからは、大人の方々に混じって同じコミュニティで音楽を楽しみ、九州大会など大舞台で演奏してみたいという夢があったので、入学後は一般の吹奏楽団（ウインドアンサンブルティラミス）に入団し、学業やアルバイトの合間をぬって活動しました。

ティラミスは沖縄市を中心に活動している吹奏楽団で、大会に向けた練習だけでなく、演奏会や地域のイベント参加、中学生の技術指導なども行っています。地域の人々との関わりを通して、今度は医療従事者の一人として地域の病院に就職し、貢献したいと思うようになりました。

大学という枠を超えたコミュニティは人と関わることの楽しさや大切さを学ぶことができ、4年間を通して活動して得たものは宝物です！

バスケットボールを通して 気分をリフレッシュ

2年次 上地 凜さん

私は現在、バスケットボールの社会人チーム「すこやか薬局」に所属し、学業と両立させながら活動しています。

10月に行われた「沖縄県社会人バスケット選手権大会」で優勝し、12月の「全日本社会人バスケットボール選手権大会 / 九州ブロック」に出場でき、ベスト4という結果を残すことが出来ました。

授業や課題で忙しい日々の中でも、バスケットを通して気分をリフレッシュすることが出来、充実した楽しい毎日を送れていると感じています！



教育・研究の紹介

成人領域

現場の看護師さんとともに学ぶ クリティカルケア看護演習

本学のクリティカルケア看護演習では、地域の病院で活躍する看護師さんをお招きし、実践的な学習ができる機会を提供しています。臨床現場の第一線で働く看護師さんから、現場での経験に基づいた具体的な関わり方を学ぶことで、教科書だけでは得られない“生きた看護”を学ぶことができます。

また、具体的な将来像を描ききっかけとなり、学生の学習意欲や主体性の向上にもつながっていくと考えています。実際の演習では、お招きした看護師さんの話を学生の皆さんがいつも以上に目を輝かせながら聞いている様子が印象的でした。このような取り組みは、大学教育と臨床現場をつなぐ架け橋として、引き続き継続していきます。



小児保健看護 鈴木 ミナ子先生

みなさん、「ペアレント・トレーニング」という言葉をご存じでしょうか。これは、神経発達症や育てにくい子どもへの対応について親自身が学び、安心して子育てできるよう支援するプログラムです。

私はこれまで、幼児期から青年期の子どもをもつ多くの親御さんに対して、ペアレント・トレーニングを実践してきました。そのなかで、沖縄県における経済的困難や親自身の問題、沖縄特有の島文化に関連する課題など、子育て以外の複雑な要因が絡み合う現実を目の当たりにしてきました。こうした要因が親の生きづらさを生み、それが思春期・青年期の子どもたちの生きづらさへとつながっていると感じています。

私は、沖縄で生まれ育った子どもたちが「沖縄で生まれてよかった」「このお母さん、お父さんのもとに生まれてよかった」と感じられるよう、一人でも多くの子どもを支えたいという思いで研究活動が続けています。その一環として、地域貢献活動にも取り組んでいます。



令和7年度には、公開講座2回や、連続講座「ペアレントトレーニング（全6回）」を企画・開催しました。どの企画も、参加者の皆さまからご好評をいただきました。今後も、研究成果を沖縄県民の皆さまに還元できるよう、実践的な活動を継続していきたいと考えています。

国際交流



台湾研修の感想 3年次 安慶名 紋佳さん

8月18日から27日までの10日間、3年次6名・2年次2名の計8名が国立台北護理健康大学主催の研修に参加しました。研修



では、陰陽の考え方を基にした中国医療について学び、鍼治療、かっさ、カップping、足つぼ、マインドマッピングなどを実践しました。

また、故宮博物院の見学や病院訪問を通して、台湾の歴史や日本との医療の違いを体感しました。さらに台湾の学生との交流を通して、文化や食、地域の雰囲気を感じることができ、とても貴重な経験となりました。



トビタテ！！ 1年次 宮良 夏羽さん

私は「沖縄からアジアへ旅立て」留学プログラムに参加しており、2月から1か月間シンガポールへ留学します。



留学に先立ち、県内でITと医療を融合した取り組みを行う「リュウウェル」でインターンシップを行い、認知症診断に関する臨床実験の現場を見学しました。沖縄特有の地理的条件や医療従事者不足、高齢化社会といった課題に対し、地域に根ざしたIT活用の重要性を実感しました。

シンガポールでは、現地の看護師からITやアプリを活用した医療実践や先進的な予防医療について学び、沖縄が抱える医療課題の解決に生かしたいと考えています。



中国北京市を訪問して 2年次 樋渡 心さん

今回のプロジェクトでは北京市にある、万里の長城や天安門を訪れ様々な体験をしました。

その中で特に印象的だったのが頤和園です。頤和園には昔ながらの中国の歴史を感じさせる風景があり、広い湖や所々にかかる橋が美しかったです。中でも全長728メートルの回廊は圧巻で、回廊を歩きながら湖を見る時間が心に残っています。

実際に訪れることで写真では分からない歴史の重みや雰囲気を感じることができ、他国のことを学ぶ楽しさや大切さを実感しました。



北京研修 2年次 平仲 明華さん

今回の北京研修では中国の歴史や文化、現地の人々の生活に触れ日本とは異なる価値観や考え方を学ぶことができました。特に、現地の学生との交流を通して言葉や文化が違ってもお互いを理解しようとする姿勢の大切さを実感しました。

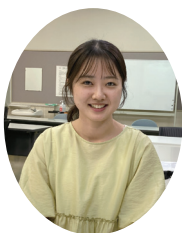
また、自分が当たり前だと思っていたことを見直すきっかけにもなり、物事を多角的に考える力が身についたと感じています。

この研修を通して視野が大きく広がり、将来や進路についても深く考えるようになり、貴重な経験となりました。



大学院生の様子

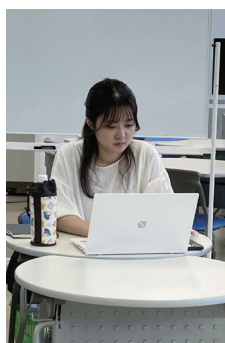
沖縄県立看護大学大学院 博士前期課程1年次 新井 舞桜さん



私は本学の学部を卒業後、精神看護の研究者および教員を目指すために大学院へ進学しました。

大学院の講義は少人数制で、ディスカッションを通して学ぶ形式が多いことが特徴です。看護の現場でさまざまな実務を経験した学生と意見交換をすることで、自分にはなかった視点に気づかされることが多く、さらに多角的な視点から議論を行うことで深い学びを得ることができています。

また、自分の意見を文献や根拠に基づいて言葉にし、他者に伝える力が求められるため、思考を整理し表現する力が鍛えられていると実感しています。



大学院生活は、多様な学びの中で自分の関心や価値観を見つめ直し、これからも学びを楽しみ続けていきたいと思える貴重な時間です。

地域との連携

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

当院では、看護学生の皆さんが「看護の楽しさ」と「人を支える仕事の尊さ」を実感できる実習を大切にしています。患者さんの小さな変化に気づき、寄り添い、チームで支えていく過程は、教科書では得られない学びです。これからの進路を考えている皆さんには、看護が決して特別な人だけの仕事ではなく、誰かを思う優しさや、前向きに挑戦する気持ちから始まる職業だということを知ってほしいと思います。

私たちは、実習に来る学生一人ひとりの成長を心から応援し、将来、地域の医療を支える仲間として迎えられることを期待しています。看護の道に興味を持つきっかけになれば嬉しく思います。

看護部長 津波古 正江



修学支援給付金事業寄付のご案内

沖縄県立看護大学では、島しょやへき地であっても、そこに住む人々が最善の健康を増進、維持、回復できるように自立した看護職者の育成に取り組んでおります。特に経済的理由により学生生活の継続に困難がある学生が安心して学修に専念できるよう、皆さまからのご寄附や会費により「修学支援給付金事業」を実施しております。つきましては、本事業の趣旨をご理解いただき、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問合せ先 総務課寄付担当者 TEL 098-833-8800



ご寄付いただいた個人・団体

現在までの実績（のべ）：個人 62 名 法人・団体 17 件 合計 2,629,541 円

（2026 年 1 月 31 日時点）

個人 小泉 穂高様、安里 清榮 様 他

法人／団体 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 様 他

寄付金活用による活動報告

沖縄県立看護大学修学支援基金奨学金：2023 年度 支給人数 14 名 合計 42 万円

2024 年度 支給人数 22 名 合計 66 万円

2025 年度 支給人数 23 名 合計 59.8 万円

経済的理由により修学が困難な者に対して、入学時に要する経費の一部に相当する返還の必要のない給付奨学金を支給しています。（1 人 2.6 ～ 3 万円）

寄附講座のご紹介

沖縄県立看護大学では、奨学を目的とする民間等からの寄附金等を有効に活用して、本学の教育研究の進展及び充実に資することを目的として、寄附講座を設置しています。

寄附講座一覧

講座名	設置期間	寄附者
島嶼看護研究推進寄附講座	2024 年 10 月 28 日～2026 年 9 月 30 日	NEW NURSING 株式会社

OPEN CAMPUS!!

まず体験!! あなたの一步が未来を変える!!

2026年7月18日(土)
10:00~15:00

〒902-8513 沖縄県那覇市与儀1丁目24番地1号
TEL (098) 833-8800 (代) FAX (098) 833-5133

<https://www.okinawa-nurs.ac.jp/>

かせかけ

総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具。この道具を使って織物用の糸を巻いていく様子を「かせかけ」といいます。愛する人を想って糸を巻く、そのような情景を描いた踊りは琉球古典舞踊の「七踊り」の一つにも数えられています。大切な想いを丹念に紡ぎ、そして形にしていく「かせかけ」は、学びを重ねながら成長する学生たちの大学生活にも通ずる部分がありそうです。広報誌「かせかけ」ではそのような学びの一コマ一コマを取り上げてお伝えします。



公立大学法人
沖縄県立看護大学 広報誌
Okinawa Prefectural College of Nursing

編集：沖縄県立看護大学 / 大学広報委員会 発行：2026年3月